



木 販売 サービス 金

MONODZUKURI

モノづくり

金属プレス加工で車部品生産

高機能化とコスト減両立

平安製作所会長

荒木 邦彦 氏



平安製作所(滋賀県高島市)は金属プレス加工を用いた自動車エンジン部品やトランスミッション部品が主力だ。独自の生産技術を武器に製品の高機能化とコストダウンを両立。国内生産を維持しつつ、新興国の部品メーカーにコストで負う向勝負を挑んできた。また関税や調達の効率化などを背景に、自動車メーカーは現地調達を加速。今後の成長には海外展開が不可欠となる。海外市場開拓に向けた製品戦略を荒木邦彦会長に聞いた。

海外事業の進め方は、これまで30%のコストダウンを実現する新工法の開発で、国内生産を維持しながら新興国に対抗する戦略を進めてきた。また引先の日系自動車メーカーは、新興国での現地調達化政策を

市場をつくる

ドネシアの部品メーカーであるパミンドとの技術提携だ。

「まずはパミンドに顧客部品のドライフアプレート生産技術を提供する。歯形成や焼き入れなど、高度な成形技術は当社が日本で行い、面成形や穴あけ、仕上げなど全工程の4割をパミンド

が担当。パミンドを拠点に、東南アジアに進出する日系自動車メーカーに部品を供給していく」進行状況は、「2013年8月から

月に1回ペースでパミンドを訪問。技術指導の前で指示した工程をきちっと、5S(整理、整頓、どこに、どう)を現場は短期間で徹底し、顧客の日系自動車メーカーの幹部もすでにパ

月にはじめての工場改善活動を実施し、顧客の日系自動車メーカーの幹部もすでにパ

月にはじめての工場改善活動を実施し、顧客の日系自動車メーカーの幹部もすでにパ



現在開発中のプレス加工で製造するスプロケット。2、3年後にインドネシアでの生産も視野に入れる

現地企業と提携 新興国挑む

ミンドを視察。かなりの好感度で、パミンドから部品供給も現実味を帯びてきた。

「取り組を進める上で課題は、

「ローカル人材に技術開発のノウハウをいかに伝えていくか。生産技術はある程度水準だが、新製品を開発する機会がない。激しい競争環境の中で部品メーカーが生き残るには、製品開発が重要。顧客に言われたい。本社に海外ビジネスの専門部隊設置を検討している」

人材育成がカギ

平安製作所が模索している海外企業との提携スキームは、取引先の自動車メーカーの理解を得られつつあり、まずは第1の関門を越えたところ。付加価値の高いコアな加工は日本で行い、仕上げ工程などを現地で行うといった手法は斬新なゆえに、効果が未知数な部分もある。

同ビジネスを軌道に乗せるには本社の意思を浸透させ、現地人材をいかに育成するかにかかっている。開発力をつけ海外市場創出に向けた同社の取り組みは、これからが正念場だ。

チェックポイント